

次期戦略策定に向けた取組の状況

「科学技術イノベーション総合戦略 2017」の後継戦略の策定（来年年央予定）に向けて、CSTI においては、関係省庁・本部等と連携し、以下のような方針で検討作業を進めている。

1. 政府内における検討

(1) CSTI 政策討議

- 次期戦略の検討を進めるに当たり、フォーカスを絞り込みメッセージを強く打ち出すために、以下の 10 分野を当面の重要項目として選定した。
 - ① Society 5.0 ②大学改革 ③研究力向上 ④産学連携 ⑤エビデンス
 - ⑥バイオ戦略 ⑦政府予算におけるイノベーション方策 ⑧AI 戦略
 - ⑨環境エネルギー・水素戦略 ⑩国際戦略
- 10 の重要項目ごとに、CSTI 政策討議（CSTI の有識者議員懇談会を拡大し、内閣府政務、総理大臣補佐官、関係省庁・本部の幹部（局長級）等の参加を得た会合） を実施し、課題抽出・政策検討を実施することとした。
- 本年 10 月以降、①Society 5.0 ②大学改革 ③研究力向上 ④産学連携 ⑤エビデンス ⑥バイオ戦略 に関する政策討議を順次開催したところ。（②～④は未来投資会議 構造改革徹底推進会合（イノベーション）との合同会合として開催した。）

参考資料 1：政策討議「研究力向上」（H29.11.2）内閣府提出資料

参考資料 2：政策討議「大学改革」（H29.11.29）内閣府提出資料

参考資料 3：政策討議「産学連携」（H29.11.29）内閣府提出資料

(2) タスクフォース

- CSTI 政策討議と並行して、10 の重要項目ごとに、内閣府科技部局の担当参事官・企画官を中核として関係本部・省庁の課室長クラス職員からなる タスクフォース を編成し、政策討議での課題整理等を踏まえた、具体的な目標や施策の検討等を進めることとした。（来年年 2 月頃を目標、その後年央に向けて継続的改善。）

(3) CSTI 本会合等

- 機に応じて、CSTI 本会議での討議や、CSTI 有識者議員ペーパーのとりまとめ等に

より、総合戦略 2018 策定に先行してメッセージを社会に打ち出していく予定。

- 先月 11 月 16 日には経済財政諮問会議と CSTI の合同会合が開催された。
 - 合同会合では、CSTI 有識者議員ペーパーにおいて、イノベーション創出を「生産性革命」の中核に据えるための 5 つのイニシアティブ（Society 5.0 基盤構築の加速、若手研究者活性化のための環境整備、社会と協業する次世代の大学の創出、官民による未来投資への転換、イノベーション政策の統合化）を提唱したところ。

参考資料 4：「生産性革命」のためのイノベーション創出に向けて
(CSTI 有識者議員ペーパー)

参考資料 5：イノベーション・生産性の向上に向けた取り組みの抜本的強化に
向けて（経済財政諮問会議有識者議員ペーパー）

参考資料 6：総理発言

2. 専門調査会における検討

- 専門的見地からの検討をいただくため、本年 12 月以降、調査会における議論を府内の政策討議等と並行して実施していくことを想定している。
 - 個別分野（Society 5.0、バイオ戦略等）
重要課題専門調査会の下部会合（重要課題 WG、バイオ戦略 WG 等）
 - 横断的分野（研究力向上、大学改革、産学連携等）
科学技術イノベーション政策推進専門調査会

3. 本日の専調で御議論いただきたい事項

- 次期戦略において横断分野に係る内容は重要な柱となることから、これまで CSTI 政策討議（11/2：研究力向上、11/29：大学改革・産学連携）において討議された論点・課題について、科学技術イノベーション政策推進専門調査会の委員からも御意見をいただきたいと思えます。
- 全般について御意見をいただきたいと思えますが、特に、調査会の専門性から、
 - 領域横断的な観点
 - ベンチャー企業の観点

- 国際的な視座に立った戦略の観点
- 研究時間劣化の観点

等からの御意見をいただければと思います。

- また、次期戦略に盛り込むべき内容（What）と併せて、戦略の対象範囲（スコープ）やまとめ方についても御意見をいただければと思います。
 - 「科学技術イノベーション」の対象範囲の広がり
 - 科学技術イノベーションに関する他の国家戦略との役割整理（未来投資戦略、健康・医療戦略、知的財産推進計画、世界最先端 IT 国家創造宣言 等）
 - 科学技術基本計画との関係[※] 等

※：「計画策定後の新たな取り組みや変化にも留意しつつ、各年度に重きを置くべき取組等を示すもの」（総合戦略 2017 前文）

（参考 1）次期戦略の位置づけについて

次期戦略の位置づけについては政府内において検討を進めているところであるが、現在のところ以下のようなアイデアが出ている。

- イノベーション政策促進に関わる政府の他の本部（未来投資会議、知的財産戦略本部、IT 戦略本部等）が策定する戦略との関係を明示的に含め、国際的に比肩しうるイノベーション環境を構築するための統合的な戦略とする。
- このため、総合戦略 2018 においては、重要政策項目（後述）ごとに、
 - ① グローバルスタンダードを踏まえた「国際水準ベンチマーク目標」
 - ② ①と既存目標や KPI との差（ギャップ）
 を明らかにし、②のギャップを埋めることを目標にした施策の立案・実行を促す。
- 重要項目ごとに、「グローバル状況下での現状の分析」「世界水準をベンチマークとした目標設定」「達成の道筋の明示及びそのための具体的施策」「結果の評価の仕組み」を盛り込む。

(参考2) 生産性革命に関連する動向

- 政府の未来投資会議は、本年 11 月 17 日に生産性革命に関する議論を実施。
 - イノベーション拠点である大学のガバナンス改革、政策資源の若手研究者への思い切った振替、Society5.0 時代に対応した制度改革等が議論された。
 - 同会議の有識者議員からは、Society5.0 に向けたビジネス・イノベーションを起こすための規制のサンドボックス制度の導入の提言がなされた。
 - 安倍総理から、「生産性革命の鍵は、イノベーションの実現」である旨の発言。

参考資料 7 : Society 5.0 に向けたビジネス・イノベーションで「世界最先端」
を走るための環境整備（未来投資会議有識者議員ペーパー）

参考資料 8 : 総理発言